

主 題：恵みによる救いとキリスト者の行ない**聖書箇所：エペソ人への手紙 2章8－10節、マタイの福音書 5章13－16節**

今日は皆さんと一緒に「恵みによる救いとキリスト者の行ない」をテーマに学んでいきたいと思えます。クリスチャンの皆さん、皆さんにとって「救い」とは何でしょうか？また、もし皆さんが他の人から「救って何ですか？」と尋ねられた時、どのように答えられますか？確かに、この救いは神が私たち人間に与えてくださった最高のプレゼントです。しかし、この最高のプレゼントである中身を私たちは良く理解しているのでしょうか？また、この中にまだこの神の救いを知らない方がおられましたら、先ほども言ったように、救いは神から私たち人間に与えられた最高のプレゼントですから、是非今日、このプレゼントをお受けくださるようにお勧めします。みことばははっきりとこのように教えています。Iテモテ2：4「神は、すべての人が救われて、真理を知るようになるのを望んでおられます。」。

私たちは今日、この救いと、そして、救われた者のその行ないを、エペソ2章8－10節、また、マタイの福音書5章13－16節から見ていきたいと思えます。

その前に、私たちが救われる前の姿をもう一度知っておきたいと思えます。みことばはその姿を私たちに分かり易く教えています。

1. 「救われる以前」の私たちの姿 エペソ2：1－3

今日のテキストの前の箇所、2：1－3を見ましょう。「1 あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいた者であって、2 そのころは、それらの罪の中にあつてこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従って、歩んでいました。3 私たちもみな、かつては不従順の子らの中にあって、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。」

1) 自分の罪過と罪との中で死んでいた者 エペソ2：1

この「罪過」と「罪」には大きな意味の違いはありません。この二つのことばは「人間が本来あるべき生き方に失敗していること」を表わしています。罪は「神から離れて神に反逆する」、そのような行為です。また、「神を無視して自分勝手な生き方をする」、それが罪です。別の言い方をすれば「的外れの生き方」、それが罪です。みことばはこのように教えます。ローマ人への手紙6：17「神に感謝すべきことには、あなたがたは、もとは罪の奴隷でしたが、…」と、このように言ったパウロですが、彼は同じローマ7：24で自分のことをこのように言っています。「私は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか。」と。パウロは自分が罪深い者であることをよく知っていたのです。そのような私をだれが救い出してくれるのかと言うのです。

そして、その「罪過と罪の中で死んでいた」とは「霊的な死」です。罪人であるゆえに神から離れている、そのような状態を言っているのです。

2) サタンに従っていた者 2節

「空中の権威を持つ支配者」とは、サタンを表わしています。私たちはサタンに従って生きていたのです。また、「不従順の子ら」ということばは不信仰な人々、あるいは、神を受け入れない人々を指しています。2節は私たちの姿をはっきりと教えています。それは「サタンに従う者であった」と言います。使徒の働き26：18に「それは彼らの目を開いて、暗やみから光に、サタンの支配から神に立ち返らせ、わたしを信じる信仰によって、彼らに罪の赦しを得させ、聖なるものとされた人々の中にあって御国を受け継がせるためである。』」と記されています。

3) 自分の肉の欲の中に生きていた者 3節

「肉の欲」とありますが、それは自己中心の生き方です。罪の欲するままに生きているその姿です。私たちは救われる前はこのような姿だったのです。自分の自我と罪との中で死んでいた者、サタンに従う者、そして、自分の肉の欲するままに生きていた者でした。ローマ6：19に「あなたがたにある肉の弱さのために、私は人間的な言い方をしています。あなたがたは、以前は自分の手足を汚れと不法の奴隷としてささげて、不法に進みましたが、今は、その手足を義の奴隷としてささげて、聖潔に進みなさい。」と書かれています。

4) その結果 3節

そのような生き方をしている者の結果をみことばははっきりと教えています。3節の最後に「生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。」とあります。私たちは御怒りを受ける者だったのです。救われる前の私たちは罪人として神に敵対する者でしたから、それゆえに、神のさばきが私たちの上に注が

れるのです。神のさばき、それは永遠の死、永遠の地獄です。この3節の冒頭は「私たちもみな」ということばで始まっています。そして、御怒りの前には「生まれながら」ということばが付いています。皆さんもよくご存じのように、パウロはローマ3：10-11でこのように言っています。「それは、次のように書いてあるとおりです。「義人はいない。ひとりもない。：11 悟りのある人はいない。神を求める人はいない。」と、私たちはみな生まれながらに御怒りを受けるべき者だったのです。ローマ3：23に「すべての人は、罪を犯したので、神からの榮譽を受けることができず、」と、そして、ローマ6：23「罪から来る報酬は死です。…」とある通りです。

皆さん、私たちはこの神の怒りを解決する方法を持っているのでしょうか？いいえ、私たちは持っていません。持っていないということは、もし、私たちが救われる以前の姿そのままであるなら、確実に、全員御怒りを受けるべき者だということです。

2. 解決の道 エペソ2：4-5

しかし、感謝なことです。この2章4節の冒頭に「しかし」とあります。解決の道があるのです。4-5節「しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに、：5 罪過の中に死んでいたこの私たちをキリストとともに生かし、——あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです——」、解決の道が私たちに示されました。それは、あわれみ豊かな神の愛によってです。神に敵対していた私たちに対して、神はいつもあわれみの心を示しておられます。神はご自身が私たちのために計画されている最上、かつ、最高の状態に私たちが回復することを望んでおられるのです。冒頭で1テモテ2：4を読みました。そこには「すべての人が救われて」と書かれていました。これが神の願うことなのです。

4節の「大きな愛」とは、イエス・キリストの十字架です。自己犠牲の愛です。それをもって神は私たちに解決の道を示してくれたのです。ヨハネは1ヨハネ3：16でこのように言っています。「キリストは、私たちのために、ご自分のいのちをお捨てになりました。…」また、パウロはピリピ2：7-8で「ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。人としての性質をもって現れ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました。」と言っています。ローマ5：8には「しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。」と書かれています。私たちがまだ罪人であったときに、イエスは十字架に掛かれ、それによって神はご自身の愛を私たちに明らかに教えてくださっていると、このようにパウロは言うのです。

3. 恵みによる救い 2：8-9

解決の道、それは「恵みによる救い」です。そのことが今日ともに学ぼうとするエペソ2：8-9に書かれています。

(1) 恵み

「恵み」とはギリシャ語では「カリス」と言いますが、これは神からの一方的な賜物です。プレゼントです。そして、それは全く値のない者に与えられるものです。「報酬」ということばがありますが、これはその人のその働きに応じて与えられるものです。だから、先ほど見たローマ6：23「罪から来る報酬は死です」と言われるのはそのことです。「恵み」についてパウロはエペソ1：7でこのように言っています。「この方にあって私たちは、その血による贖い、罪の赦しを受けています。これは神の豊かな恵みによることです。」と。「罪の赦しを受けている」とは「救い」のことです。それは「神の豊かな恵みによる」とパウロはここでも教えています。

(2) 救い

2：8に「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。」とあります。「救い」は「神のあわれみと恵みと聖霊の働きによって」私たちに与えられるものです。「救い」ということばの概念は「危険と悲惨という状態から安全な状態へ救出する。」です。これが大きな意味です。もっと分かり易いことばで知ろうとするならこういうことです。「神が人を罪のさばき、永遠の滅びから救い出して過去の罪を精算し、現在における祝福と天国での永遠のいのちを人に与えてくださるといふ、神の働きの全体を指している。」と、救いはこのような意味を持っているのです。

さて皆さん、この「恵みによる救い」を私たちに与えてくださる方はただ一人しかいないとみことばは教えています。使徒の働き4：12「この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人に与えられていないからです。」、この方以外には救いはないと、みことばははっきりと教えています。また、パウロは1テモテ1：9でこのように言います。「神は私たちを救い、また、聖なる招きをもって召していただきましたが、それは私たちの働きによるのではなく、ご自身の計画と恵みとによるのです。」と。旧約聖書のヨナ書2：9に「しかし、私は、感謝の声をあげて、あなたにいけにえをささげ、私の誓いを果たしましょう。救いは主のもので。」とあります。「救いは主のもので

す。」と簡潔に書かれています。この箇所の欄外の注を見ると「主から来ます」とあります。どう意味でしょうか？ 救いは主以外にはだれも持っていない、私たちが持っていないものだということです。だから、救いは主から来る、まさにその通りです。先ほども言いましたが、ローマ6：23「罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。」、神の下さるプレゼントは、私たちの主キリストが持っている永遠のいのちだと教えます。

(3) 信仰によって

「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。」「信仰によって」とは「信じることによって」ということで、確かに、この行為は私たち人間の側の行為ですが、しかし、この信じる心をも聖霊の働きによって私たちの内に与えられたものです。私たちは確かに信じるという行為をしましたが、この行為さえも聖霊の働きによるのです。パウロは様々な箇所でのことを教えています。ローマ3：22「すなわち、イエス・キリストを信じる信仰による神の義であって、それはすべての信じる人に与えられ、何の差別もありません。」と。「イエス・キリストを信じる信仰による神の義」、すなわち、「救い」のことです。また、ガラテヤ2：16には「しかし、人は律法の行いによっては義と認められず、ただキリスト・イエスを信じる信仰によって義と認められる、…」とあり、これも「救い」のことです。ヨハネはヨハネの福音書1：12に「しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。」と記しています。これも「救い」のことです。

ですから、8節の後半に「それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。」と教えるのです。「神からの賜物です」をギリシャ語の語順で日本語に訳すなら「神のものである賜物は、」となります。

(4) 行ないによるのではない

救いはすべて神のわざです。だから、9節に「行ないによるものではありません。」と記されているのです。私たちの行ないによるのではないとパウロは言うのです。ローマ3：27-28「それでは、私たちの誇りはどこにあるのでしょうか。それはすでに取り除かれました。どういう原理によってでしょうか。行いの原理によってでしょうか。そうではなく、信仰の原理によってです。：28 人が義と認められるのは、律法の行いによるのではなく、信仰によるというのが、私たちの考えです。」、また、先ほども見ましたが、Ⅱテモテ1：9には「…それは私たちの働きによるのではなく、ご自身の計画と恵みとによるのです。」とありました。ガラテヤ2：16では「しかし、人は律法の行いによっては義と認められず、ただキリスト・イエスを信じる信仰によって義と認められる、ということを知ったからこそ、私たちもキリスト・イエスを信じたのです。」とあります。

さて皆さん、もし、私たちが自分の行ないによって救われるのであれば、救われた者は自分が自分を救ったその行ないを誇ることが出来ます。だから、9節の後半に「だれも誇ることはないためです。」とあるのです。私たちは私たちの力で自分を救うことが出来ないのです。私たちが出来ることは、ただ神の前に悔い改めて、神を信頼する、神に従うというこの行為だけです。

4. キリスト者の行ない エペソ2：10、マタイ5：13-16

2章の8、9節で、私たちは救いが神の恵みであること、私たちの行ないではないことを知りました。しかし皆さん、「救われて良かった。天国に行けるから良かった。神の子どもとされたから良かった。天に国籍が与えられて良かった。」と、それで救いが完結されているのでしょうか？いいえ、みことばはその後このように教えます。

(1) 良い行ないを伴う

2：10「私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。…」、神の作品とは神によって新しく造られた者のことです。クリスチャンの皆さんはその通り、新しく造られた者です。Ⅱコリント5：17に「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」と教えています。また、コロサイ人への手紙3：10では「新しい人を着たのです。新しい人は、造り主のかたちに似せられてますます新しくされ、真の知識に至るのです。」とあります。

恵みによって救われた者には良い行ないが伴うのです。この10節から言うなら「良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られた」、それがクリスチャンである私たちです。救われた者には良い行ないが伴うのです。「良い行ない」とは英語の聖書では「GOOD WORKS」と書かれています。「良い働き」ということでしょうか？しかし、どちらにしてもこれは「神に従う思いと行ない」のことです。それは様々なことばで言い表わすことができるでしょう。

* 「良い行ない」とは？

- a. 造られた方である神のわざを反映する「行ない」
- b. 神が望まれる（喜ばれる）「行ないや働き」

c. 神を愛し、神を証することすべて

d. 神とともに歩む信仰生活

私たちはこの10節で言われている良い行ないを、聖書の別の箇所から見たいと思います。

*** マタイの福音書5章13-16節**

「:13 あなたがたは、地の塩です。もし塩が塩けをなくしたら、何によって塩けをつけるのでしょうか。もう何の役にも立たず、外に捨てられて、人々に踏みつけられるだけです。:14 あなたがたは、世界の光です。山の上にある町は隠れる事ができません。:15 また、あかりをつけて、それを柀の下に置く者はありません。燭台の上に置きます。そうすれば、家にいる人々全部を照らします。:16 このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行ないを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」

・ **あなたがたは地の塩です 13節**

塩はものに味をつける時になくてはならないものです。塩を入れない料理などありません。なぜなら、その料理に味が出ないからです。また、塩は物の腐敗を防ぐためにも役立つものです。「塩気のない」とは「役割を果たしていない、何の価値もない」という意味です。私たちクリスチャンがそのような者であってはなりません。私たちには塩気が必要なのです。それは私たちがこの世に対しても、あるいは同じクリスチャンに対しても、良い影響を及ぼさなければいけないからです。私たちが塩気を失ったら世の人々はイエス・キリストをどこに見るのでしょうか？食物であるイエス・キリストの最高の風味を引き出す者でなければなりません。

・ **あなたがたは世の光です 14節**

また、14節では「あなたがたは、世界の光です。」と言われます。箴言4:18、19ではこの光と闇についてとても分かり易く教えています。「:18 義人の道は、あけぼのの光のようだ。いよいよ輝きを増して真昼となる。:19 悪者の道は暗やみのようだ。彼らは何につまずくかを知らない。」と、このようにはっきりと光と暗やみを教えてくれています。

さて皆さん、この世は確かにサタンの支配する暗やみの世界です。しかし、私たちは神の光を反映する者でなければいけません。イエスはヨハネの福音書8章12節でこのように言っておられます。「わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。」と。私たちはこの光なるイエス・キリストを反映する者でなければいけないのです。しかし、私たちは日々の生活の中で、様々な誘惑に負けて罪を犯す者です。この光を隠す私たちの行ないがどのようなものなのかを見てみたいと思います。

*** 光を隠す行ないとは？**

a. 語るべき時に語らない

その行為によって私たちは光を隠しているのです。

b. 世の人に同調する生き方

それを継続している人です。パウロはローマ書12:2で「この世と調子を合わせてはいけません。」と命じています。私たちがこの世の人と同調した生き方を継続して行なうことによって光を隠してしまうのです。

c. 光を否定する

d. 自分の罪によって光を弱める

e. 光を他の人に説明しない

私たちに与えられている大命令はマタイ28章19節、あるいは、マルコ16章15節で言われているように「出て行ってみことばを宣べ伝える」ことです。私たちはまだイエス・キリストを知らない多くの人たちに、このことを説明しなければいけません。説明しない時に私たちは光を隠す行ないをしているのです。

そして、マタイ5:16の後半に「人々があなたがたの良い行ないを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」と書かれています。クリスチャンの良い行ないは神を証するものであり、また、神に喜ばれることです。しかし、それは神とともに歩む時に可能です。ですから、私たちの行ないの焦点はいつも神に向けられていなければいけないのです。そして、私たちの行ないを見て父なる神が称えられるためだと言います。それは私たちの行ないを見て、すべての人が救われて、父なる神に感謝をささげることです。私たちの良い行ないの目的ははっきりとしているのです。みことばがそのように教えます。私たちはそのことを教えられていても本当に罪深い者です。それを為そうとすることを躊躇する者です。でも、神は私たちにそれを為す力をも与えてくれています。

エペソ5:8-10にはこのように書かれています。「:8 あなたがたは、以前は暗やみでしたが、今は、主にあって、光となりました。光の子どもらしく歩みなさい。:9 ——光の結ぶ実、あらゆる善意と正義と真実

なのです——:10 そのためには、主に喜ばれることが何であるかを見分けなさい。」、逆に言うなら、主が喜ばれないことが何であるかを悟りなさいということです。皆さん、私たちは救われて永遠のいのちを頂きました。また、神の子どもとされました。天に国籍が与えられました。確かに、すばらしいことです。しかし、今みことばから学んだように、この地上にあっても地の塩、世の光として神を証するという恵みにも与った者ではないでしょうか？

私たちは神のしもべです。神の兵士です。神の家の良き管理者です。ですから、私たちは神の働き人として、今、実際にこの地上で生かされているのです。ヤコブはヤコブ書2：26でこのように言います。「たましいを離れたからだが、死んだものであると同様に、行いのない信仰は、死んでいるのです。」と、非常に厳しいことばです。皆さん、私たちはもう一度、私たちの救いがどのようなものであるかを知る必要があるのではないのでしょうか！

(2) 「良い行ない」をも神が備えてくださった

そして、さらに感謝なことに、10節の後半にはこのように書かれています。「神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。」、だれが備えてくださったのですか？神です。だれのために？私たち救われた者のためにです。「良い行ないをすでに備えてくださった」とみことばは教えるのです。このことに関して、パウロはピリピ2：13-14でこのように教えています。「:13 神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです。:14 すべてのことを、つぶやかず、疑わずに行いなさい。」

私たちはこの良い行ないを神が備えてくださったことをみことばから教えられます。私たちクリスチャンは、私たちのうちに住まれる聖霊の働きと、みことばに従うことによってのみ、良い行ないの道を歩むことが可能です。神はみこころのままに私たちの内に働いて志を立てさせてくれるのです。良い行ないをしようとする思いを与えてくださるのです。「みこころ」とは「神の計画や目的や意志などに関すること」で、聖なる意図を表現する場合に用いられます。神の「良し」とされることです。そして、「事を行わせてくださる」、神は私たちに力を与えてみこころを為さると、このようにみことばははっきりと教えています。

だから、14節「すべてのことを、つぶやかず、疑わずに行いなさい。」と言われるのです。すべてのことです。例外なく、どんな小さなこともつぶやかず不平不満を言わずに、事実と違うのではないかというような不信の思いをもつことなどなしに、示されたことを行ないなさいと教えています。皆さん、神は私たちの心に働いて計画、あるいは目的をはっきりと示して下さり、示して下さるだけでなく、それを為す力をも与えてくださるのです。私たちはこの神の力と助けによって、ひとり一人に託された働きをすることができるのです。

先週の近藤先生のメッセージは、ひとり一人に賜物が与えられているということでした。ひとり一人に働きが与えられているのです。そして、その賜物を余すところなく使いなさいとみことばは教えています。余すところなく、100%です。1%も余してはいけない、その賜物を使いなさいとみことばは私たちに励ましを与えるのです。

今日は皆さんとご一緒に、恵みによって私たちが救われたこと、また、救われた私たちがどのようにこの地上での人生を歩まなければいけないのか、そのことをみことばから学びました。私たちひとり一人は、神が用いてくださるというその目的をもって救いの恵みに与ったのです。だから、イエスがあのエルサレムに入城した時に、「主がお入用なのです」とろばの子を用いたように、私たちもこのろばの子のごとく用いられるべきではないのでしょうか！！

5. 考えてみましょう

- 1) 私たちの「救われる前」の姿は？
- 2) 「救い」とはあなたにとって何ですか？ また「救われた」あなたはどのように生きるべきですか？
- 3) 私たちが「光を隠す行ない」を五つ挙げてください。
- 4) 私たちはどのような態度をもって、主の働きを為すべきでしょうか？
- 5) 神の大切な戒めをもう一度思い出しましょう。 マタイ22：37-39